

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう」 教材名「おすすめパンフレットを作ろう」

2 単元の目標

言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付き、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解する((1)ア・力)。目的や意図に応じて書くことを選んで伝えたいことを明確にし、引用したり、図表やグラフ、写真などを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる(B(1)ア・エ)。すすめたい物のよさが読み手に伝わるように、進んで書き表し方を工夫し、グループでパンフレットにまとめようとする(学年の目標(3))。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。((1)ア) ②話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)力)	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	①進んで、引用や図表などの使い方を工夫し、学習の見通しをもって、すすめたい物のよさを伝えるパンフレットを作ろうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本単元は、すすめたい物を決め、相手と目的に合わせて、すいせんする文章をグループで分担して書き、パンフレットにまとめる学習である。学習指導要領第5学年及び第6学年のB(1)エ「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」を中心に、B(1)アの、書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることを合わせて身に付ける。パンフレットは、限られた紙面に文章と図表、写真を並べる形なので、何を引用し、どの図表を入れるかを、伝えたいことに照らして選ぶ必要が出てくる。また、すいせんする文章は読み手の気持ちを動かすことを目的に書くので、(1)アの、言葉が相手との関係を作る働きに気付かせやすい。第5学年までに学んだ、事実と感想、意見とを区別して書くことや、資料を使って報告する文章を書くことを使い、中学校での、根拠を明確にして考えを書く学習へ進む位置にある。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、すすめる相手と目的を、グループで最初に一行の言葉にして決め、材料を選ぶ時も、書き表し方を工夫する時も、その一行に戻って判断させる（B(1)ア）。次に、引用や図表は入れることを目的にせず、すすめる理由の文と結び付けられる物だけを選ばせる。本時は、先生が作った二つの文章を読み比べ、工夫の観点を子どもの言葉でまとめてから書かせる。そして、引用の決まり（かぎでくくる・出典を示す・引用した部分を変えない）と、写真や図表の出どころを書くことを、単元を通して守らせる。担当ページの文章は、すすめる理由を引用か図表のどちらかで裏付けている物を「おおむね満足できる」状況、引用と図表の両方を、相手に合わせた言葉で理由と結び付けて説明している物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○元気が出た本や音楽、映画、地域の場所や行事など、人にすすめたい物を出し合う。 ○学習課題「相手と目的を決めて、すすめたい物のよさが伝わるパンフレットをグループで作ろう」と学習の計画を確かめる。	態①（発言・計画表）
第2次	2	○グループで、すすめる物と、すすめる相手（下の学年・家の人・地域の人など）、目的を決める。 ○本やインターネット、取材で材料を集め、取材カードに書いて分類する。	思①（取材カード）
	3	○パンフレットの構成（表紙・中のページ・裏表紙）と分担を決める。 ○担当するページの割り付けと、すいせんする文章の組み立てを考える。	知②（割り付け表）
	4 （本時）	○引用や図表、写真の使い方を比べて工夫を見付け、担当するページのすいせんする文章を書く。	思②（下書き・割り付け表）
	5	○書いた文章を読み返し、グループで推敲する。 ○参考にした資料（本の題名・作者・発行元・発行年、ウェブサイトの名前と見た日）を裏表紙に書き、一冊にまとめる。	知①（推敲の書き込み）
第3次	6	○他のグループとパンフレットを読み合い、内容と書き表し方のよいところを伝え合う。 ○学習を振り返る。	態①（振り返り）

6 本時の指導 (4/6)

(1) 本時の目標

すいせんする文章で、引用したり、図表や写真などを用いたりして、すすめる理由が相手に伝わるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)工)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前の時間の割り付け表で、自分の担当するページと、すすめる相手・目的を確かめる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「同じ物をすすめる二つの文章を読み比べます。相手により伝わるのはどちらでしょう」 【めあて】すすめる理由が相手に伝わるように、引用や図表、写真の使い方を工夫して書こう。 〈予想される児童の反応〉 ・ Bの方が、本当にそうなのかが確かめられる。 ・ Aは「おもしろい」ばかりで、どこがおもしろいのかが伝わらない。 ・ Bは数が表になっているから、くらべやすい。	・ 読み比べる文章は先生が作る。Aは理由を「おもしろい」「すごい」だけで書いた物、Bは本の一文の引用（出典つき）と、簡単な表と写真を入れた物にする。教科書の作例は使わない。 ・ 割り付け表を机に出させ、相手と目的を一行で書いた札をページの上に置かせる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
展開 (分)	3 AとBを比べ、Bの書き表し方の工夫を見付ける。 ○「Bでは、どんな物を、何のために使っていますか」 4 見付けた工夫を、全体で観点にまとめる。 （観点の例）・引用はかぎでくくり、どこから引いたかを書く。 ・図表や写真は、すすめる理由を確かめられる物を選び、文章のどこと対応するかを示す。 ・相手に合わせて言葉を選ぶ。 5 自分の担当ページのすいせんする文章を書く。 ○「あなたのすすめる理由を確かめられる引用や図表は、どれですか」 6 ペアで下書きを見せ合い、引用や図表が理由と結び付いているかを確かめ合う。 〈予想される児童の反応〉 ・本の中の言葉をそのまま入れると、本当にそう書いてあることが伝わる。 ・人数や回数は、文で書くより表の方が見やすい。 ・写真があると、行ったことがない人にも様子が伝わる。 ・下の学年の子が読むので、むずかしい言葉を言いかえた。 ・写真がきれいだから入れたけど、理由とは関係がなかった。 ・引用が長すぎて、自分の考えが少なくなった。	・引用は、自分の考えを言うための一部にとどめ、引用ばかりにならないようにさせる。かぎでくくる、出典を書く、引用した部分を変えない、の三つは必ず守らせる。 ・図表や写真は、理由の文と線で結べる物だけにさせる。結べない物は外す。 ・何を引用するか決められない子には、取材カードの中から「すすめる理由に一番近い物」を一枚選ばせる。 ・書き出しが決まらない子には、相手に呼びかける一文から書き始める例を示す。 ・早く書けた子には、相手を変えて書くとしたら、どの言葉を言いかえるかを考えさせる。 ・写真や図は、自分で撮った物・作った物か、使ってよいと示された物だけを使わせる。 ◎思② 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（下書き・割り付け表）
まとめ (分)	7 工夫した所に線を引き、その工夫で何が伝わるかを下書きの横に一文で書く。 8 二人ほどが工夫した所を紹介する。 9 振り返りを書く。	・振り返りは「使った工夫と、それで相手に伝わること」「友達の下書きで参考にしたいこと」の二つで書かせる。 ・次の時間は、グループで推敲し、参考にした資料を書いて一冊にまとめることを伝える。

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ。右端に日付・題名・めあて。その左に先生の作った文章AとBを並べて貼る（Bには引用・表・写真が入っている）。中央に、Bで見付けた工夫を三つの観点（引用の仕方・図表や写真の選び方・相手に合わせた言葉）にまとめて書き、それぞれBの該当する所と線で結ぶ。その左に、子どもの下書きから出た工夫の例と、外した方がよい例（理由と結び付かない写真など）を並べる。左端に振り返りの観点二つ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

